

< 76 巻、2001 年、1 号から 26 号までの索引 >

subject index、Index of countries and territories、Notification of diseases subject to the Regulations が記載されている。

今週の話題：

< 疾患のベクター（媒介動物） 旅行者への警告と危険 Part >

* ベクターに対する個人の防御

旅行者のカテゴリー別特徴の違いについて前号で記述したが、さらにある状況において媒介動物からの防御レベルを決定する 2 つの重要な要素がある。1 つは病気を媒介する生物の予防と制御である。例えば黄熱や日本脳炎のような病気はワクチンで予防できるが、マラリア、デング熱、住血吸虫症、リーシュマニア症、睡眠病やシャーガス病等は予防できない。マラリアには予防薬があるが、各地で薬剤耐性が増加しその範囲も拡大し続けており、有効な予防薬があるならともかく、マラリアに関する限り予防薬があるとの安心感は健康に重大なリスクとなりうる。

旅行先のベクターコントロール制度がいかなるレベルで行われているか、が 2 つ目の問題となってくる。国や地方自治体によって効果に大きな差があるが、典型的な観光地においては、観光協会やホテル組合がベクター由来の疾患伝播の危険を最小限に抑えるために努力しており、旅行者に評価されている。

上記の点を心に留めてベクターと疾患から自身を守るために全旅行者には次に挙げる予防策を実施してもらいたい：虫よけは媒介生物と人間を接触させないように皮膚や衣服につけるもので、DEET はその有効成分として知られているが、虫を寄せ付けないが駆除はしない。WHO 殺虫剤評価組織（WHO Pesticide Evaluation Scheme, WHOPEs）は人間に無害ながら効果の高い新しい 2 つの防虫剤成分（IR3535、KBR3023）の評価を終えた。その薬効は気温や湿度など多くの要因に左右されるが、肌に直接塗った場合 15 分から 10 時間は持続し、衣服につけた場合はより長く持続する。虫よけは旅行者にとって便利なものではあるが、薬効の期限を考えると蚊帳を併用した方がよい。

随所で簡単に入手できる蚊取り線香は殺虫剤を気化するものの代表例で、その有効成分は合成ピレスロイドである。普通の寝室で風が吹いていなければ一晩は効く。もっと高度なものに電気で温められると殺虫剤が気化する殺虫マットがある。

殺虫剤スプレーは即効性と殺傷効果があるが、効果が短く、また部屋を蚊から守るが、部屋から蚊がいなくなるというわけではない。蚊取り線香又は、蚊帳を組み合わせるとスプレーを使うことが推奨される。日中の外出時には防護服が効果的である。殺虫剤を使わなければ素材の厚さが重要である。殺虫剤塗布に最適でまた殺虫剤の効果も長持ちする。ダニが群がる場所では、殺虫剤と組み合わせるとブーツを履くことが推奨される。蚊帳は、理想的な解決策であり、殺虫剤を染み込ませると効果が高まる。合成ピレスロイド系殺虫剤を浸透させた多様な素材の蚊帳が市場に出ている。網目のサイズは 1.5mm より小さくなければならない。マラリアが多発している地域のホテルに常置されている蚊帳に穴が空いていないことを確かめる。寝袋と同じサイズの携帯蚊帳も市場に出回っている。

テントでキャンプをする時は蚊取り線香と殺虫剤を組み合わせると蚊帳を使うのが最も良い。網戸をとり付けることは、一ヶ所に長期滞在する旅行者、又は緊急を要する人々、人道主義的救助活動に従事する者に対する解決策である。空調は屋外の蚊や、昆虫から身を守るために役に立つ。淡水（湖や緩やかな流れの疎水、貯水など）への接触は吸虫症が流行している区域では避けるべきである。職業上の接触ではブーツで保護し、娯楽では塩素処理したプールで泳ぐことが推奨される。

流行ニュースの続報：

< インフルエンザ >

モーリシャス(2001 年 6 月 16 日)¹：

5 月第 3 週目から主に B 型インフルエンザの局地的な発生が見られる。

ウルグアイ(2001 年 6 月 24 日)¹：

A、B 型インフルエンザの散発的事例が報告されている。2 例のインフルエンザ A 型はいずれも子供で急性呼吸器感染を伴っていた。参照：¹No. 23, 2001, p. 179

訂正：< DOT 世界 2001 年 24 号 p. 181 >

第一段落

(正)「1999 年わずか 23%の患者しか DOTS 戦略によって発見され、治療を受けたに止まった。

第三段落

(正)「(…略) WHO の世界的結核ネットワークは 2000 年 11 月エジプト・カイロで開催される会議で GDEP 設立について協議することを取り決めた。」

(高橋明子、永島田まゆみ、寮隆吉、中園直樹)